

海外安全対策情報（バーレーン：2015年4月～6月）

1 社会・治安情勢

現在の治安情勢は概ね落ち着いており、治安の急激な悪化等が懸念されるような状況ではない。また、一般犯罪も少なく、全体としてみれば治安の良い国と考えられる。

しかし、5月22日、29日のサウジアラビア、6月26日のクウェートにおいて、シーア派モスクを狙った爆弾テロ事件が発生したことにより、バーレーン治安当局は、国内の全てのモスクについて、警察官を配置、入場者のチェック、礼拝終了ごとのモスクの閉鎖、監視カメラの設置、モスクの自主警備の許可、及び警備・救護訓練の実施等の警戒強化を実施している。

なお、6月28日の現地報道によれば、I S I Lのバーレーン人幹部が「次の金曜日（7月3日）にバーレーンで、クウェートの様なテロが起こる」との声明を発している。

また、一部の過激化した若者達による暴力的活動は継続しており、一般人が巻き込まれることは少ないにしても、治安部隊との衝突も散発していることから、引き続きこの種の事案に対する警戒は必要である。

なお、4月に開催されたF1グランプリ期間の治安については、目立った事件も発生せず、昨年及び一昨年に比べ落ち着いていたと言える。

他方、昨年12月28日に各種法令違反の容疑で勾留されたアリ・サルマン・ウィファーク代表の判決を不服とする反政府グループによるデモ活動も各地で継続していることから、引き続き留意する必要がある。

2 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

(1) 基本的に一般犯罪は少なく、在留邦人が被害に遭うことは非常にまれであるが、殺人、強盗、強姦といった凶悪犯罪の発生は確認されていることから、最小限の防衛行動に心掛ける必要がある。

(2) 邦人被害事案

なし

3 テロ・爆弾事件発生状況

(1) 5月8日、バーレーンからサウジアラビアに爆発物を密輸しようとしたテロ容疑者5人をサウジアラビア当局が逮捕した。乗用車からはRDX爆薬約

- 31kgと起爆装置が押収された。バーレーン治安当局は、バーレーン内のテロ容疑者宅数軒を家宅捜索し、爆発物等を押収した。
- (2) 5月25日、シトラにおいて指名手配中のテロリストが逮捕された。犯人の供述により、同地区内で武器、手製爆弾等が発見された。
- (3) 5月26日、マアミール地区、アーリ地区において、サウジ・カティーフの爆弾事件を非難するデモ行進を行っていた集団を威嚇したと思われる発砲事件が発生した。
- (4) 5月28日、カッターナにおいてテロ容疑者が逮捕され、武器、手製爆弾等が発見された。
- (5) 6月2日、外事犯罪捜査局（CID）は、14名からなるテロ組織を摘発し、10名を逮捕すると共に爆発物・武器を押収したと発表した。CIDによれば、同グループはイラン滞在のバーレーン人首謀者2名が協力者を募り、爆薬等武器や資金を供与し、イラクに送って軍事訓練を施し、「アシュタル旅団（※バーレーン政府がシーア派の非合法テロ組織として指定）」を名乗り、2013から15年の間テロ事件に関与していたとのことである。
- (6) 6月7日、内務省当局は、アシュタル旅団の構成員12人を逮捕した旨を発表した。内5人はイラクにおいてカタリーブ・ヒズブッラーからC4、TNT等の爆発物及びカラシニコフや迫撃砲等の武器の取扱、誘拐、狙撃等の訓練を受けたと供述している。
- (7) 6月18日、内務省は、3月15日及び5月8日にキング・ファハド・コーズウェイで逮捕した犯人の供述及び押収品の分析から、ダール・クライブ地区の倉庫で、TNT爆薬222kg相当の爆発物等が発見押収し、5名を逮捕した。
- (8) 6月28日、ISILが「次の金曜日（7月3日）にバーレーンでクウェートの様なテロが起こる」と述べている旨の報道があった。治安当局は警戒強化を行った。結局7月3日には、特異な事件は発生しなかった。

4 誘拐・脅迫事件発生状況

日本人の被害は報告されていない。

5 日本企業の安全に関する諸問題

テロの対象となり得るモスク等宗教関連施設やシーア派地区内には近付かない

ことを徹底するとともに、不特定多数の人々が集まる施設（レストラン、ショッピングモール、ホテル、観光施設、市場等）を訪れる際には、周囲の状況に注意を払い、不審な状況を察知したら、直ちにその場を離れるなど安全確保に十分注意する必要がある。

また2011年の大規模騒擾事案を念頭に、社会・治安情勢が急激に悪化した場合の対応について、体制を構築しておく必要がある。特に、大使館との連絡手段の確保（緊急連絡網、デモ情報、無線機、FMラジオ等）、緊急時の国外退避方途について、日頃から準備と確認をしておくことが重要である。

以 上